



肝ぞう通信

2023年度 第6号 《薬物性肝障害について》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：
平日 9:00～15:00
土曜日 9:00～12:00
(第2・4土曜日除く)

豆知識

お薬には肝臓で代謝され排泄される薬と、腎臓から排泄される薬があります。

次回号

テーマ：
肝線維化について

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

薬物性肝障害とは

薬物性肝障害とは、医療機関で処方されたおくすりやドラッグストアなどで購入できるおくすり、サプリメントなどが原因となり起こる肝臓の炎症で肝臓の機能が障害されます。解熱消炎鎮痛薬、抗がん薬、抗真菌薬、漢方薬などさまざまなおくすりが原因となります。

体内に入ったおくすりの多くは、腎臓から尿となって排出されるか(裏面イラスト①)、肝臓・胆汁を介して腸管から便となって排泄されます(裏面イラスト②)。

肝臓・胆汁を経由して排泄される場合は、おくすりが肝臓で代謝され排泄されます。しかし代謝の過程で多くの代謝産物が発生し副作用として肝機能障害が多いと考えられています。

また、一部のおくすりは排泄の途中で腸管から再度吸収され、肝臓に戻ることが知られています。(裏面イラスト③：腸肝循環)

薬物性肝障害は大きく2種類に分類され、「中毒性」と「特異体質性」があります。

中毒性とは…

おくすりやサプリメントそのもの、またはそれらが代謝されてできた物質により肝臓が炎症を起こします。原因物質の量が多いほど、障害が強くなります。そのため、決められた用法・用量を守ることが重要です。

特異体質性とは…

薬物性肝障害の多くが特異体質性です。こちらはおくすりやサプリメントなどの原因物質の量に関係なくアレルギーのように発症するため、発症の予測は難しいとされています。お酒の強さに個人差があるように、おくすりの代謝、分解にも個人差があることがわかってきました。他のおくすりでもアレルギーが出た、あるいはもともとアレルギー体質である方は要注意です。